

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700030		
法人名	医療法人 桜木記念病院		
事業所名	グループホーム桜木さん明和		
所在地	三重県多気郡明和町大字佐田沼2055		
自己評価作成日	平成25年6月30日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivogyoCd=2492700030-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成25年7月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人の為、常時医師や看護師との連携もとれるため安心できる。重度化された場合も母体が療養病床をもあり御家族が希望されれば看取り介護も対応できる事業所です。まだまだ発展途上のホームですが、少しずつではありますが地域との交流も広がってきています。敷地内は広くお天気の良い日は毎日のように散歩をしお隣が保育所ということで日々かわいい子供達の元気な声や笑い声でいっぱいです。常に生活の中で笑顔がたくさん見られるグループホームを目指しがんばっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営しており、医師や看護師との連携がとれ、医療や介護に関する研修も実施している。また、訪問看護の看護師とのかかわりもあり、利用者は健康管理や医療の面では安心ができる。看取り介護についても指針が作成されており、職員研修も実施している。近隣住民や保育園児との交流もあり、夏祭り等事業所のイベントへの参加者も年々増えている。職員がとても明るく、利用者との会話ははずんでおり、笑顔があり、活気のある明るい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を職員全体で理解に努め「尊び心から尽くし介護させていただく」の理念のもと常に笑顔を忘れず介護を提供する努力を行っている	「尊び心から尽くし介護させていただく」という理念で、管理者・職員が常にあいさつと笑顔を重視し、利用者に接している。また、理念実践に向け、職員研修や職員の情報交換を積極的に行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の時の挨拶や会話を通じて日常的なふれあいができるように努めている。	自治会へ加入し、溝掃除や近隣の清掃活動に利用者も参加している。また、隣接する保育園の運動会への参加や、事業所の収穫祭に保育園児を招待しており、事業所の夏祭りに多数の地域住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会議や研修会には積極的に参加しているヘルパー実習生の受け入れも継続的に続けている。更に明和町の推奨する職場体験学習受け入れ事業所として地域貢献を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場職員・地域包括センター職員や自治会・民生委員・利用者家族で構成し、日常の活動状況・ケアについて報告しサービスの質の向上の為の貴重な意見や助言を頂いている。	町役場職員・地域包括センター職員、利用者(4~5名)、自治会・民生委員・利用者家族代表等が出席し開催している。都合がつけば、桜木病院長、事務長が参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者が主催する地域連携会議があり積極的に参加しコミュニケーションをとるよう努めている。	地域連携会議に積極的に参加し、町担当者と情報交換を行っている。また、事務連絡や書類提出時に町担当者と意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的身体拘束をしない取り組みを実践しているが、生命の危険が伴う場合は家族様に書面にて同意をもらうよう説明させて頂いている。鍵をかけない施設を実践している。	玄関は施錠せず、自由に出入りできるようになっている。また、身体拘束についての研修を実施しているが、転倒を防止するため家族に書面にて同意を得て止むを得ずY字帯を使っている利用者がある。	Y字帯使用については、入居当時から家族の希望で書面にて同意を得て支援しているが、止むを得ない場合を除き、Y字帯を使用する時間を少しでも少なくする支援を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務ミーティングの中で不適切な介護が行われていないか十分に話し合い、職員の意識統一を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット内に1名の入居様が利用されており、まず社会福祉協議会と連携し定期的に報告等をおこなっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず管理者が契約についての重要事項の説明をおこない、同意を得て契約を締結している。将来的に重度化した際の対応については家族様と充分時間を取り説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様面会時には出来るだけコミュニケーションをとるよう管理者、ケアマネが中心となり取り組んでいる。今年度よりホーム独自のアンケートをとらせていただき運営につなげていく予定です。	面会が多い土曜日と日曜日に、管理者とケアマネージャーが家族と会話をして、生の声を聞いて運営に生かしている。また、家族アンケートを重視し、活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者及び管理者は職員の意見や要望を発言しやすい雰囲気作りに努めている。	業務会議で管理者が職員を指名し、全職員に発言してもらうように心掛け、意見や要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりがいを重視し、働きやすい職場にするべく努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的な申し出等、研修受講の機会のある時には、職員に声かけし研修を受講してもらえるよう、勤務編成も含めた環境づくりに努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連携会議・勉強会等に積極的に参加してサービスの質の向上させる努力をおこなっている。それ以外での管理者同志の連携も随時おこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査では身体状況、生活歴など含め本人にも同席していただき状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には施設見学的にいただいたり事前面接により困っている事・要望などを聞くことで安心していただき、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にまず必要としているサービスを見極め、必要があれば全施設と連携し他のサービスも含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活を一方的に介護をしてもらう立場に利用者をおかず、人生の先輩として敬意を表しいっしょに助けあって生活をしていくという意識で支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の近況を伝えたり、また日々のケアにあたる上で必要な在宅時の状況を教えていただいたり、コミュニケーションを密にすることで家族を巻き込んだチームケアにあたるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の意向も聞きながら本人様の友人、知人等が訪問しやすいよう支援している。また外出したい場所等があれば出来る限り希望を叶えられるよう対応させて頂いている。	友人や知人が気軽に立ち寄り、訪問しやすい場になるよう心掛けている。玄関は施錠せずオープンにしている。外出の場所等希望に添えるように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況や利用者同士の関係を注意深く見守り、職員が日常の様々な場面で利用者同士の関係を上手くいくよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から相談があれば随時対応できるようにしている。現状を聞かせていただいたり積極的に会話をもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から一人ひとりの思いを引き出せるよう心がけている。その日の体調や表情から情報の把握に努める。	常に会話するように心掛け、会話や日々の表情から体調を判断したり、利用者の思いや希望等、情報の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者の知人、入所前のサービス担当者から情報を得たり、また入所後は本人との会話の中から情報を得たりするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するよう努力し、日々変化する状況を正確に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット別の月2回のケースカンファレンスにより担当スタッフの情報に基づき話し合い、快適な生活を提供できるよう話し合い作成している。	月1回ケースカンファレンスを開催し、本人・家族の意見と担当職員の情報をもとに、ケアマネージャーと職員全体で要望・課題・問題点を揚げ、計画を作成している。担当職員の意見を重視しモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況を個人の生活記録に記入し、職員の共通の情報にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に必要な支援を出来る限り柔軟に取り組んでいる。病院への通院介助・身体状況変化当の緊急時にもすぐに対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協や家族様・自治体からボランティアの紹介を得たり、小学校の慰問などを積極的に受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を入所後も継続して診察が受けられるよう、ホームへの往診を含め主治医及び家族と相談するようにしている。	病院が運営しているが、入居前のかかりつけ医に入居後も継続して診察が受けられるように支援している。緊急時は桜木病院の医師も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理についての相談・心身の変化や異常発生時の対応方法等について指示や助言がもらえる体制ができており支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、看護師に日常生活の情報を提供し、入院中は定期的に病室を訪ね病状の確認をおこなっている。また病棟の担当ナースに病状を確認し、退院してからスムーズにホームでの生活に対応できるように努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化された場合の対応について家族とお話させていただいている。できる限り家族の要望をお聞きし重度化された場合の対応については都度、家族と面談にて看取りを含めた終末期の意向をお聞きする。	入居契約時に、入居にあたっての指針と同意書に終末期の看取りに関する指針を説明してあるが、終末期に入る前に再度確認している。指針に終末期の手順や職員研修等について詳細に記され、それ等をもとに支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、いつでも職員が閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力をえて、定期的に利用者とともに消火訓練、避難訓練などをおこなっている。	消防署の協力を得て、3月と11月に利用者とともに消火訓練避難訓練等を実施している。夜間を想定した呼び出し訓練も実施している。9月の防災の日にあわせて、自治会や保育園の協力を得て防災訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として意識をもち尊重し、日々の言葉かけや対応に気を配っている。相手の立場になって考えるを念頭におき不適切な介護や対応に対しては職員同士で注意をして対応している。	人生の先輩として尊重し、常に相手の立場に立って考え行動するように心掛けている。上から目線での対応に気がついた時は、職員同士で注意するように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で表情や会話の中での自己決定やその人らしい希望を引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課の流れはできているが、その日の体調、気分を優先した中で状況をみながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は自分で選んでもらい個性を大切にしておしゃれを楽しんで頂いている。お化粧品をしたい方は自由に化粧品をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備、盛り付け、食器の後片付けをできる方にはお手伝いをして頂いている。	朝・夕食時には材料の下ごしらえ・皿の準備・食器洗い等、役割があり、利用者の力を活かした支援になっている。前の畑で利用者が収穫した野菜や差し入れの魚等その時々調理され、楽しみのある食事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量のチェックを行っている。又、体調、習慣によっても調理方法、食事形態を一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをおこない、困難な場合は状況に合わせて支援している。又、家族の希望を聞き、歯科医師の往診・歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め都度対応している。トイレでの排泄に向けた支援に力を入れている。	排泄チェック表を用いて、声掛け・トイレ誘導をしている。トイレで腰を掛けての排泄支援が基本であるが、ポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように水分摂取に気を付け、繊維質のものを多く食事に取り入れ食べてもらっている。又、体操や散歩等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと気分よく入浴していただけるよう特に曜日を定める等の様なことはせずその日の体調を優先し入浴して頂いている。	入浴は毎日、午後入浴できるようにしているが、平均で週に2～3回程度入浴している。また、職員と会話をしながらゆったりと入浴できるようにしている。入浴を拒否する方も、週に1～2回は入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりとした気持ちで休んでいただけるよう、就寝前にホットミルクや温かい飲み物を飲んでいただいたり安眠に向けての支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が常に確認できるように、薬剤情報を作成しファイルしてある。又、医師の指示時により薬剤が変更された場合には日誌にて全員が周知できるように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下準備、畑仕事、掃除、食後の後片付け、洗濯物の片付け等、日常生活の習慣、経験をいかした役割を支援して、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物、近場での季節の花見、足湯、など外出をおこなっている。又、外食、ドライブなど家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。	近くでの季節の花見、足湯などに外出している。家族の協力を得ながら、外出・ドライブに出かけられるよう支援をしている。百円均一での買い物にも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者には個人で財布を所有している方もいらっしゃる。買い物同行時には希望の物を購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の意向も聞きながら、希望に応じて電話をかける(受ける)支援、手紙の投函等をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには季節の花や利用者の作品を展示したり季節感のある空間を演出している。トイレ、浴室は清潔第一で掃除も都度入念におこなっている。	リビングは広くゆったりとしており、廊下も広い。居室の前に利用者の季節感のある手づくりの貼り絵や折り紙等が貼られ、くつろぎの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で入居写同士自由にゆっくりと過ごすことができ、一人になりたい方は、各自室で過ごせるようそれぞれ配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせるよう対応しているが、危険と思われる時は家族と相談しながら安全に配慮している。	家具やベット等、使い慣れた生活用品が持ちこまれ、家具の転倒防止等、安全で安心して暮らせるよう配慮されている。各居室とも清潔で整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでフロア全体、浴室、トイレ、廊下には手すりを設置し安全に生活できるようにしている。また、個人の長所を生かし、可能な範囲で出来る事をしていただくよう努力している。		